

# きちょうめんな トーマス

トーマスは、物を<sup>もの</sup>片<sup>かたづ</sup>付けるのが好きです。  
それはトーマスにとって、ゲームのよう  
なものなのです。

トーマスは、食卓<sup>しょくたく</sup>を片<sup>かたづ</sup>けたり、食後<sup>しょくご</sup>に  
テーブルの<sup>した</sup>下の<sup>ゆか</sup>床<sup>ゆか</sup>を<sup>は</sup>いたりするなどの  
雑用<sup>ざつよう</sup>も好きでした。はいた<sup>あ</sup>後の<sup>ゆか</sup>床<sup>み</sup>は見た  
目<sup>め</sup>もきれいだし、足元<sup>あしもと</sup>がきれいだと気持ち<sup>きもち</sup>が  
いいものです。お母<sup>かあ</sup>さんやお父<sup>とう</sup>さんがほめて  
くれた<sup>とき</sup>時<sup>か</sup>などは、格別<sup>かくべつ</sup>です。トーマスが  
きちんと<sup>さいご</sup>最後まで<sup>ざつよう</sup>雑用<sup>ざつよう</sup>をして<sup>く</sup>れることを、  
両親<sup>りょうしん</sup>はほこらしく<sup>おも</sup>思<sup>おも</sup>ってくれました。

トーマスは、今日<sup>きょう</sup>は<sup>かあ</sup>お母<sup>かあ</sup>さんの<sup>てつだ</sup>手<sup>て</sup>伝<sup>つだ</sup>いで  
洗<sup>せん</sup>たく物<sup>もの</sup>を<sup>ほ</sup>すことに<sup>し</sup>ました。いつもは  
ケイトが<sup>てつだ</sup>手<sup>て</sup>伝<sup>つだ</sup>うのですが、今日<sup>きょう</sup>は<sup>つか</sup>つかれて  
いる<sup>ようす</sup>様子<sup>ようす</sup>です。ゆっくり<sup>ゆる</sup>り<sup>ゆる</sup>したい<sup>たい</sup>かもしれ<sup>し</sup>ません。



せん き しゅうりょう き  
洗たく機から 終了の ブザーが 聞こえて  
くると、トーマスは せん き ところ  
洗たく機の 所まで  
ワゴンを ひ ば い せん き  
引っ張って 行き、洗たく機を  
いっぱい のせると、にわ む  
庭に 向かいました。

きょう は かせ  
今日は、晴れていて そよ風が ふいています。  
せん もの ひ  
洗たく物を ほすには、もってこいの 日です！  
トーマスは せん  
洗たくロープに シャツを  
ほしながら、たの はなうた くち  
楽しそうに 鼻歌を 口ずさんで  
いました。

なに しんゆう  
「ねえ、トーマス！ 何してんの？」 親友の  
やきゅう うえ な  
チュリです。野球ボールを 上に 投げては  
キャッチしながら た  
立っていました。

せん もの み  
「洗たく物を ほしてるんだよ。ねえ、見て。  
シャツが ピンと してるだろ。ぼく、れんしゅう  
練習  
したんだ！」 トーマスは、じょうず  
上手に ほせたので  
とく い はじ せん もの  
得意そうです。初めて 洗たく物を ほそうと  
した とき、シャツが なんまい じめん お  
落ち、また 洗い直さなければ なりませんでした。  
でも あら なお  
あきらめなかったので、すぐに じょうず  
上手に  
ほせるように なったのです。



「そんなの、つまらないよ！ ねえ、いっしょに  
あそ  
遊ぼう！」 チュリが さそいます。

「いや、<sup>たの</sup>楽しいよ。自分<sup>じぶん</sup>で やって みなきゃ、  
<sup>たの</sup>楽しく ないなんて、<sup>わ</sup>分からない でしょ。」と、  
<sup>こた</sup>トーマスが 答えました。

チュリは よくよく <sup>かんが</sup> 考えて みました。それも  
そうです。今<sup>いま</sup>までに <sup>せん</sup> 洗<sup>せん</sup>たく 物<sup>もの</sup>を ほした ことなど、  
1 <sup>ど</sup>度<sup>ど</sup>も ありません。チュリは <sup>やきゅう</sup> 野球<sup>やきゅう</sup>ボールと  
ミットを <sup>した</sup> 下<sup>した</sup>に <sup>お</sup> 置<sup>い</sup>いて 言<sup>い</sup>いました。

「<sup>わ</sup>分<sup>わ</sup>かったよ。じゃあ、やってみるから。  
だけど、もし <sup>たの</sup>楽しく なかったら、ほかの ことを  
しようね。」

「じゃあ、この <sup>せん</sup> 洗<sup>せん</sup>たくばさみと シャツを  
も 持<sup>も</sup>って。ぼくの まねを するんだよ。」

トーマスは、シャツが かわいた <sup>とき</sup> 時<sup>とき</sup>に シワが  
できないように、きれいに ほして <sup>み</sup> 見<sup>み</sup>せました。  
そして、チュリが <sup>せん</sup> 洗<sup>せん</sup>たくロープに シャツを  
のばして ほすのも <sup>てつだ</sup> 手<sup>て</sup>伝<sup>つだ</sup>いました。トーマスの  
<sup>いぬ</sup> 犬<sup>いぬ</sup> パップまで <sup>はし</sup> 走<sup>はし</sup>って きて <sup>てつだ</sup> 手<sup>て</sup>伝<sup>つだ</sup>おうと したので、  
<sup>ふたり</sup> 二人<sup>ふたり</sup>は <sup>おおわら</sup> 大<sup>おお</sup>笑<sup>わら</sup>いしました。



まもなくすると、ケイトが<sup>き</sup>来ました。「まあ、  
トーマス!<sup>せん</sup> 洗<sup>もの</sup>たく物を ほしてくれてるのね!」

トーマスは<sup>とくいげい</sup>得意気に 言いました。「チュリも、  
<sup>てつだ</sup>手伝ってくれてるんだ。」トーマスが チュリの<sup>ほう</sup>方を チラッと<sup>み</sup>見ると、チュリもトーマスと<sup>おな</sup>同じくらい、ニコニコしています。

<sup>ふたり</sup>「二人とも、やさしいのね! そうだ、わたし…  
おやつを<sup>ようい</sup>用意して来るわ。<sup>く</sup>終わったら、<sup>お</sup>いっしょに<sup>た</sup>食べましょう。」

<sup>きみ</sup>「君の<sup>い</sup>言った<sup>とお</sup>通りだね。<sup>たの</sup>楽しいね。」ケイトが  
<sup>いえ</sup>家の<sup>なか</sup>中に<sup>はし</sup>走っていくと、チュリがトーマスに  
言いました。

「そうなんだ。<sup>せん</sup> 洗<sup>もの</sup>たく物を ほすのは、<sup>たの</sup>楽しみの  
<sup>はんぶん</sup>半分。<sup>のこ</sup>残りの<sup>はんぶん</sup>半分は、<sup>ひと</sup>ほかの<sup>よろこ</sup>人が 喜んで  
くれるっていう ことなんだ。」と、トーマス。  
<sup>せん</sup> 洗<sup>もの</sup>たく物を ほし終わると、二人は<sup>お</sup>おにごっこを  
しました。そして、ケイトが<sup>も</sup>持ってきてくれた  
かぼちゃパンと<sup>ぎゅうにゅう</sup>牛乳の おやつを<sup>た</sup>食べました。

<sup>せい</sup>聖句: <sup>なに</sup>何に <sup>て</sup>よらず <sup>ねっしん</sup>手をつけたことは 熱心に  
<sup>しんきょうどうやくせいしよ</sup>するが よい。新共同訳聖書、コヘレトの <sup>ことば</sup>言葉 9:10

